

講義 フードビジネス学



本講義では、岡山県の特産品の食資源開発力に基づく食品の生産、加工、流通、消費について、大学における共同研究、商品開発、食品業界の品質管理や経営の現場から、食品の川上から川下までのシステムについて具体例を挙げて講述します。広い視野から食の安心・安全、食品の研究開発や食品の生産、流通、消費の流れについて、理解を深めることを目的とします。

演習 チームガバナビリティ演習



現代の高度化・複雑化した社会の中で、保健・医療・福祉分野におけるより質の高い実践のためには、多専門職の連携・協働が必須です。多専門職連携は今日ではinterprofessional working (IPW) と称され、その教育はinterprofessional education (IPE) と呼ばれます。本演習では、保健・福祉・医療に関わる多学科の学生と教員が一堂に会して、クライアントに最大限に貢献するための多専門職の連携について、実践的に学びます。

演習 地域保健福祉演習



本演習は、自然との共生がテーマです。岡山の豊かな自然を健康の増進や教育へ応用するために、自然を資源とする健康生成モデルに基づき北欧の「自然を活かしたセラピー (NatureBased Therapy)」を参考に開発した自然と人がつながるプログラムに参加して、自然の機能を学ぶことをねらいとします。2024 (R6) 年度は、ストレスと共に生きる多様な世代の居場所づくりをテーマとして、建築学科の学生と協働でNBRガーデンに「心の居場所」を創出します。

講義 組み込みシステム



組み込みシステムを一言で定義することは困難であり、開発のための要素技術の分野は多岐にわたっています。本講義では、組み込みシステムの要素技術が、ハードウェアの側面からソフトウェアの側面までの幅広い領域から構成されることを鑑み、その理解を深めるために、組み込みシステム技術を体系化して講述する。また、現状の組み込みシステムの実例を多数紹介します。

講義 セキュリティ総論



本講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な構造を学び、付随するセキュリティ技術を学びます。また、日常的に利用するソフトウェアに関するセキュリティについて、実際の攻撃について調査した内容を紹介します。これらの内容を通じて、日常的に利用しているコンピュータへの攻撃の脅威を知り、対策技術の重要性を学びます。

講義 知的制御システム



本講義では、脳とコンピュータの違いから、脳に近づけるためのAI研究方向性、基本的なモデル（誤差逆伝搬法と連想記憶モデル）の解説を行った後、ファジィ制御、遺伝的アルゴリズム、強化学習、ディープラーニング、フィードバック誤差学習の理論と特徴など、AIを理解するための基本的な情報を解説します。

講義 木構造学・木構造デザイン



木構造の捉え方、見方、力の流れやバランスの考え方など、日常生活の中にある構造的思考から、災害時の構造の動き、実作を通じて木構造について理解します。木造の耐震性について、基本的な構造設計法に習熟する。特に一般的な木造の構造計算法をマスターします。構造ではなく工法という考え方を基に、素材・工法・デザインの統合としての木造について世界の建築や講師自身の作品を通じて理解します。

講義 森林生態学・地盤工学



気候変動による多くの災害やパンデミックに直面している現代社会において、環境の正しい理解なしに建築を考えることは不可能です。そのためには、森林や地盤構造に対する正しい理解が必須です。本講義では、森林や地盤についての基本的な知識を修得し、環境から導かれるこれからの建築デザインについて考える素地を涵養します。

演習 環境デザイン演習



これからのデザインは、地球規模の気候変動やパンデミックに対応する社会構造を理解したうえでのデザインが求められる。特にデザインの素材やそれらが生産される場所や生産量などの地理情報に対する広範な知識が要請されます。本講義では、GISによる地理情報を使いこなせる技術を習得することにより、デザインの背景にある地理的な情報や背景を研究や制作に生かします。

KIBInoMORI Recurrent Courses



「吉備の杜」で若者と共創する学び

「リカレント教育」とは、「社会人が仕事で求められる能力を自主的かつ継続的に学び直す」ことです。「人生100年時代」を背景に、近年、ビジネスパーソンの方々の将来を見据えた「学び直し」が注目されています。現在、岡山県立大学では、文部科学省の補助事業 (COC+R) により「吉備の杜創造戦略プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトでは、学部および大学院で開講されている科目の一部を学外の社会人にも無料で提供しています。

申込方法

- 1 検索エンジンで『岡山県立大学「吉備の杜」学外履修社会人向けプログラム』と検索します。
- 2 『「吉備の杜」学外履修社会人向けプログラム | 社会連携教育(副専攻)- 岡山県立大学』をクリックします。
- 3 まずは、「科目案内」または「開講計画(シラバス)」を確認して、履修可能科目を調べます。
- 4 次に、「募集要項」を確認し、「履修申込書兼推薦書」の様式をダウンロードします。
- 5 「履修申込書兼推薦書」の必要事項を記入し、「吉備の杜」推進室宛に郵送します。

日程等は、開講計画(シラバス)でご確認ください。右のQRコードからアクセスをお願いします。



—お問い合わせ先—

岡山県立大学 地域創造戦略センター
「吉備の杜」推進室

〒719 - 1197 岡山県総社市窪木111
電話 : 0866 - 94 - 2205
E-mail : kibinomori@oka-pu.ac.jp

令和6年度 科目紹介 —履修可能な大学院科目一覧—



対面およびオンデマンド配信対応科目



対面のみ対応科目



オンデマンド配信のみ対応科目

創造的思考力養成

講義 知の理論



哲学は「万学の祖」と言われ、大学においては一学問・一科目となっていますが、そこに留めておくのはおかしなことです。哲学的思考の対象となる「問い」は、私たちの生活・人生 (=life) のそこかしこに潜んでおり、仕事の場で見つけることができます。本講義で、そうした問いを拾い上げ、思考と対話を通して一緒に考える体験をしてみませんか。それは楽しいだけでなく、仕事の場に出会う様々な問題を解決するのに役立つ、深く豊かな「問う生活」を育むこととなります。考え続けるヒントを、過去の哲学者の言葉だけでなく、思考の実践と対話の中から獲得します。

開講のねらい

哲学的（本質的）な「問い」を自分で考え、他の人々と対話しながら考えることによって、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

講義 地域経済をテリトリーから考える



テリトリーとは、地域の文化、歴史、環境などを包括する概念です。「吉備の社」に内包する歴史や文化を学び、先人の作り上げた文化や歴史をどのように未来につなげて行くかを研究することは今を生きる私たちの責務と考えます。本講義では、「吉備の社」を作り上げた代表的先人たちについて学び（KSF:Key Success Factor）、加えて現代の岡山の経済の概要を理解し、今後どのように岡山を発展させるかを議論します。

開講のねらい

吉備の国を作り上げた先人たちは現代の経営論についての知識はないが、実際には最新の経営論を見事に活用して吉備の社の活性化のためのイノベーションを興している。その実践を学ぶことで経営理論をどのように現代に取り入れればよいかについて議論する。

講義 テクノロジーとビジネスの変革



インターネット、スマートフォンに代表されるデジタルテクノロジーが私たちの暮らしに大きな影響を与えています。テクノロジーにより、人々の消費行動は変わり、ビジネスも変化し続けています。講師が実体験してきた約半世紀のテクノロジーとビジネスの変革を中心に学び、来るべき、創るべき未来について受講者とともに考えます。本講義では、未来に向けた洞察力や創造力を養い、グローバルな視野でビジネスや社会の変化に対応する力を身につけることを目的とします。

開講のねらい

進化の著しいテクノロジーの歩みとテクノロジーがもたらすビジネスの変化を学び、未来を創る人材として高い視座を獲得する。

講義 デザイン思考



将来の予測が困難な「VUCAの時代」と呼ばれる現在、イノベーションとの親和性が高い「デザイン思考」への注目が高まっています。しかし、「思考」と名づけられているが故に、しばしば思考法やフレームワークの一種だと誤認されています。本講義では、デザイン思考が注目されるようになった社会的・歴史的背景を概観し、演習を通じてデザイン思考の各プロセスを経験することで、より実践的な知見とマインドセットを修得することを目的とします。

開講のねらい

デザイン思考の要諦を理解する／問題発見力を高め、それを表現する手法を理解する／解決のためのマインドセットを身につける

講義 時事と歴史を読む



現代社会における諸問題は様々な要素が複雑に絡み合っているため、歴史的背景をふまえて論点を整理しないと、課題解決に向けた思考には結びつきません。本講義では、半導体を例としたグローバルな物流、地域課題と地方創生、東京一極集中、国内外の教育問題、外交問題、雇用問題など現代社会の諸課題について、歴史を踏まえてその成因を理解し、課題の本質を探究することを学びます。さらに、正しい情報を得るための手段やコミュニケーションの重要性についても学びます。各講義では、課題解決を目指したグループワークを行い、その提案について講師も含めて討論します。

開講のねらい

現代の諸課題を探究するうえで、体系的な歴史学習が必要であることを理解する／現代の諸課題を解決するために必要な考え方を身につける／課題について討論でき、その結果を基に自らの意見を述べる力を身につける

講義 サステイナブルな社会に生きる



食糧やエネルギーの諸外国への大きな依存や異常気象などの問題は持続可能な社会を構築する上での大きな障害となります。本講義では、変動する社会、経済、環境問題に対し、環境に配慮した持続可能な社会やライフスタイルの実現に向けた基盤づくりを、SDGs・エネルギー問題・食糧問題の基礎知見を会得した上で、政府の重点課題や岡山県の取組み例から考え、課題解決に向けたワークショップを行い、その提案について講師も含めて議論します。

開講のねらい

行政などにおいて様々な環境問題やSDGsへの取組みの施策に携わっている講師が、本講義で基礎知識および応用について指導し、共に議論しながら、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

課題解決力養成

課題解決力養成

講義 ローカル・イノベーション



「ローカル・イノベーション」は、地域の背景や文脈に合わせて行われるイノベーションと定義します。地域のニーズや課題に対応するために、その地域で有効な解決策やアイデアを生み出すプロセスを指します。本講義では、全国的な課題となっている人口減少、地方の存続危機に対し、地方での暮らしを維持し、かつその価値を高める活動・事業を行う「地域人材」の存在について実際の人物の在り様に触れ、地域が抱える課題を解決するための人材育成・取り組みについて論じます。

開講のねらい

地域の価値向上に資する人材とはどのようなものかについて、実際の人物についてマトリクスマッピングを行い、地域に必要な人材について検討する。

講義 若手企業人材に必要な各種実践能力の養成



第4次産業革命と言われる現代は、人工頭脳（AI）、IoTやDX技術などの発達で、「モノをどう作るか」のキャッチアップの時代から「何を造るか（創るか）」のフロントランナーの時代へと大きなパラダイムシフトに突入しています。本講義では、若手企業人材として、高等教育機関で習得した基礎・応用知識などを如何にして知恵に変える「思考力」や知恵を実践するために必要な「対人力」と「組織で働く力」など関連能力の飛躍的伸長を目的とします。

開講のねらい

企業などにおける若手人材の能力向上に向けて、思考法、対人力や組織活動に関して基礎から応用まで総合的な視野での人材育成を目指す。

講義 災害医療援助論



本講義では、AMDAによる派遣講師陣からの実際の災害医療の現場での活動の講義を受け、生死について考える時間を設けることで、災害に直面した人々への洞察を深めます。さらに、災害医療の現場について、想像力を働かせることができるように、現状に応じた柔軟な考え方や対処の仕方を身に着けます。最終的には、様々な状況に生きる人々への理解を深め、人命を尊重する見識を深め、災害に対応する社会システムについて理解を深めます。

開講のねらい

人命、医療、災害について多角的に考える視点を身につける。

演習 災害医療援助論演習



本演習では、災害医療の現場で柔軟な考え方と限られた状況での対処の仕方などを学び、多くの企業、団体や地域の方々と「困ったときはお互いさま」の精神で人との繋がりを通じて多くの方との連携と協力を学んでいきます。医療に限らず様々な人の協力がある事を学びます。最終的には、様々な状況に生きる人々への理解を深め、人命を尊重する見識を深め、災害に対応する社会システムについて理解を深めます。

開講のねらい

人命、医療、災害について多角的に考える視点を身につける。

講義 データアナリティクス



本講義では、データに基づいた合理的な判断力を身に付けた上で、アナリティクスソフトSASを用いて、データの処理やビジュアライズに関する演習を行います。また、回帰分析や多変量解析などの分析に関する演習も実施します。終盤の授業では、ゲストスピーカーを招聘し、教員研修を事例にあげた効果測定や統計制度全般について講義いただきます。グローバリゼーションやデジタルイノベーションについても取り上げます。

開講のねらい

普段使用しないソフトウェアを使いこなす柔軟な対応力を身につける。加えて、異分野の話題に触れ、教養の幅を広げる。

演習 アカデミック・プレゼンテーション演習



本演習では、自身が取り組む研究内容を整理し、効果的に他者に伝える方法を学びます。いわゆる研究論文とは違い、オーラルプレゼンテーションでは紙面や時間の制約がある中で、いかに重要なポイントを絞って表現するかということが求められます。したがって、コンテンツの作り方だけではなく、いかにそうしたコンテンツを効果的に伝え、印象度を上げるかというデリバリーについても取り組みます。

開講のねらい

アカデミックなプレゼンテーションに特化した演習を通じて、具体的な技術や戦略を学び、自身の研究内容を効果的かつ引き込むように伝える力を向上させることで、プロフェッショナルなコミュニケーション能力を養う。

演習 アカデミック・ライティング演習



本演習では、「何のために論文を書くのか」という問いからはじめ、みなさんが持っている問題意識や問題解決方法をどのように言葉にすれば、読み手に伝わる文章作成ができるのか考えます。文章の作成は論文に限ったことではなく、伝わる文章を書くために必要なルールやコツを理解しておくことは、日常の様々な場面でも役立ちます。本科目では、文章を論理的に組み立てて書くための執筆ルールや言葉の使い方を学ぶとともに、ディスカッションを通じて、読解力・批判的思考力の向上も目指します。

開講のねらい

学術論文執筆に必要な基本的な執筆ルールや言葉の使い方を学ぶ／課題に対する問いの立て方、論の展開方法について学ぶ／英語論文要旨の執筆に必要な基本的な英語表現を身につける

スキル養成